

## 財務予測の作成

---

- 65 売上高の過去データに対する傾向線は、X軸を時間軸とし、Y軸を売上高もしくは売上数量とするグラフ上に、異なる傾きと切片の組み合わせで定義することができる。過去データの固まりに対して異なる傾きと切片の組み合わせを試す目的として、正しいものはどれか。
- a) 傾向線の中から外挿した場合に予測売上高が最大化される傾向線を見つけるため
  - b) 過去データの実績値を検証するため
  - c) 過去データに現れているパターンが傾向線の特定のタイプに従う理由を見つけるため
  - d) 全ての実績データに最も当てはまりの良い傾向線を見つけ、その傾向線を外挿することにより将来のY軸の予測値を得るため
- 66 回帰分析での線形近似で用いられる傾向線として、正しいものはどれか。
- a) 一次関数 ( $y = ax + b$ ) で表される直線
  - b) 二次関数で表される放物線
  - c) 指数関数で表される曲線
  - d) 対数関数で表される曲線

- 19 基本統計学 19.3 回帰分析 正解：d
- 売上高の過去データに対する傾向線は、X軸を時間軸とし、Y軸を売上高もしくは売上数量とするグラフ上に、異なる傾きと切片の組み合わせで定義することができる。過去データの固まりに対して異なる傾きと切片の組み合わせを試す目的は、「全ての実績データに最も当てはまりの良い傾向線を見つけ、その傾向線を外挿することにより将来のY軸の予測値を得るため」である。
- したがって、正解は (d) となる。

- 19 基本統計学 19.3 回帰分析 正解：a
- 回帰分析でよく用いられる近似方法として、線形近似がある。「線形」とは、一次関数を意味し、傾向線は直線である。
- したがって、正解は (a) となる。